

# 漁況予報 いわし

## 第 171 号

2012年5～6月漁期  
(2012年5月15日発行)

※1 平年：過去5年平均  
※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

### = 概況 =

#### 【マイワシ】

主要定置網における3月のマイワシ総漁獲量は81トンで、前年(62トン)をやや上回り、平年※1(31トン)を大きく上回りました。つづく4月の漁獲量(速報値)は59トンで、前年(308トン)および平年(95トン)を下回りました。

魚体は、4月には被鱗体長※2(以下同)14～16cmの小羽～中羽マイワシが主体でした。これは2月以前と同様、2011年生まれの1歳魚と推定されます。

佐島地区のまき網は、小羽マイワシ主体の漁獲が継続しました。

今後はひきつづき1歳魚が漁獲主体となり、6月頃からは今年生まれの0歳魚もヒラゴ～小羽マイワシとして漁獲されると考えられます。

#### 【カタクチイワシ】

主要定置網における3月のカタクチイワシ総漁獲量は468トンで、前年(347トン)、平年(296トン)を上回りました。つづく4月の漁獲量(速報値)は227トンと前年(246トン)並みで、平年(313トン)をやや下回りました。

魚体は、4月には9～11cmの小型成魚が主体でした。これは2011年生まれの1歳魚主体と推定されます。

佐島地区のまき網は、餌イワシとしての漁獲が継続したほか、鮮魚としての水揚げもあったため、3、4月とも前年および平年を大きく上回る漁獲量となりました。

今後はひきつづき、小型成魚が漁獲主体になると考えられます。

#### 【シラス】

相模湾のシラス漁は今年も3月11日に解禁となりましたが、解禁後から4月上旬までは、湾内全域でシラスの姿が認められない状態が継続しました。4月中旬には各地で漁が始まり、同下旬には沖合から黒潮系暖水が波及しましたが、カタクチイワシ成魚が漁場に大量に来遊したことによりかえって漁模様は低下しました。このため、4月のシラス漁獲量(標本船データより推定)は前年比0.5倍、平年比0.4倍と、近年ではきわめて不漁となりました。

4月の漁獲物はカタクチシラス(カタクチイワシ仔魚)が主体で、マシラス(マイワシ仔魚)は、前年ほど混獲率が高くない模様です。

今後はひきつづきカタクチシラスが漁獲主体になると考えられます。

### = 予報 =

#### 【マイワシ】

今漁期は、2011年生まれの小羽～中羽マイワシ(14～16cm)が漁獲主体となり、あわせて2012年生まれのヒラゴ～小羽マイワシ(14cm以下)も漁獲されるでしょう。

今漁期の漁獲量は、マイワシ太平洋系群の資源量から、前年をやや上回る610トンと予測されます。

#### 【カタクチイワシ】

今漁期は、2011年生まれの小型成魚(12cm以下)が漁獲の主体となるでしょう。

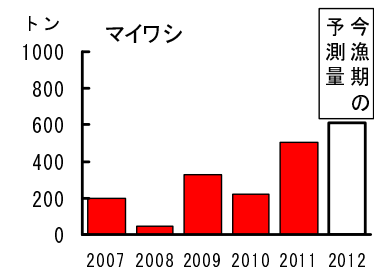
今漁期の漁獲量は、3～4月の県内主要定置網の漁獲量から、前年を大きく上回る1,240トンと予測されます。

#### 【シラス】

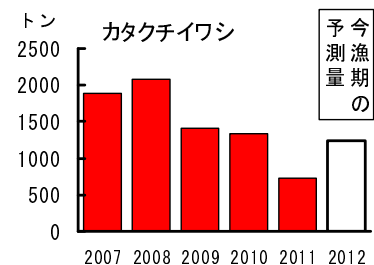
今漁期は、4月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内主要定置網によるカタクチイワシ漁獲量から、前年を下回る110トンと予測されますが、ひきつづきカタクチイワシ成魚が漁場に滞留し続けた場合は、予測値をさらに下回ることも考えられます。

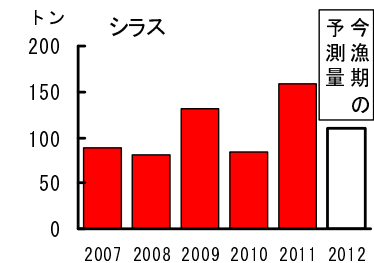
過去5年の5・6月漁期の漁獲量と  
今漁期の予測量



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網



神奈川県水産技術センター資源環境部  
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313